

違っていいから、おもしろい! 「THE アート・プロジェクト 多文化読み聞かせ隊」



▲代表の三沢範子さん(右)

THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊(以下「読み聞かせ隊」)は、多文化を紹介する絵本の読み聞かせを中心に、いろいろな文化活動

をしている市民グループです。高津市民館で開催された「川崎市市民自主学級 多文化読み聞かせ隊養成講座」を修了したメンバーによって2011(平成23)年に結成されました。

「多文化共生」という言葉を日本ではあまり耳にすることのなかった1990年代後半、代表の三沢さんは2年過ごしたオランダで多文化共生を目の当たりにしたそうです。例えば、お子さんが通学するインターナショナルスクールには、紛争地から来た子どももいました。始業のブザーが空襲警報を想起させるといって、校長がベルを鳴らし歩いて授業開始を伝えるなど、違いを受け入れて行動することが当たり前なことに心動かされたそうです。このような経験から、言葉の違い、障がいの有無といった違いに触れ合う機会をつくり、互いに理解し合える社会を目指す、活動を始めたということです。

多言語による読み聞かせ

読み聞かせは、1ページずつ言語を変えて読んでいきます。「インターナショナルフェスティバル in カワサキ2023」では、『はらぺこあおむし』(作・絵:エリック・カール)を英語⇒ドイツ語⇒中国語⇒日本語で、『なんでもできる! ?』(作・絵:五味太郎)は中国語⇒日本語で、そのほか2作品の読み聞かせを行いました。観客の皆さんは、聞こえてくる音の響きが違うことを楽しみながら、絵本の世界を楽しんでいました。

読み聞かせの本としては、内容や題材が異文化の架け橋となるもの、国や地域の文化を紹介するもの、障がいや多様性、平和をテーマとしたものを取り上げているそうです。



▲観客も一緒に大盛り上がり



▲身振り手振りを交えて熱演

ワークショップの企画・運営

読み聞かせ隊は、さまざまな表現活動を体験したり、劇を作って演じたりするワークショップを行っています。特に演劇ワークショップは、発足以来毎年力を入れて取り組んでいる活動で、今では活動の柱の一つになっています。

2016(平成28)年度からは、かわさき市民公益活動助成金を得て、障がいのある若者を中心に一般市民が集まって劇を作るワークショップを続けています。長く支援学校で教員をしてきた副代表の塚本純子さんは、「活動を続けていくうちに、子どもたちの顔がどんどん上がってきて、自信ができてきたように思います」と、参加者の様子を教えてくださいました。この活動からは、「つながり隊」という障がいのある若者たちを中心としたグループも誕生し、定期的に芝居や歌、ダンスなどのワークショップを行っています。



▲過去の上演作品DVDの数々

出合い、発見、つながることを楽しむ

「知らなかった人たちと友達になれて、知らなかったことを知る。その連続で、毎回発見があることがおもしろい」という三沢さんと塚本さんに、これからの活動について伺いました。「多文化共生で、また新しいつながりができています。障がいのことに関しては『つながり隊』が核になっていますが、複数の団体から『一緒にやりませんか』と声がかかり、いろいろ動き出しているんですよ」「つながり隊だけにね」と楽しそうに笑い合うお二人。9月には、多文化共生を視点としたダンスのイベント「カワサキ・インターナショナル・ダンス・アクション2023」の開催に協力するなど、さまざまなつながりの中で活動が広がっています。

今年5月から、高津区末長市営住宅「ふれあいルーム」に拠点を移しました。火曜日と金曜日(10時~16時)は「末長ふれあいルーム」の担当として、地域の皆さんが楽しく集い、くつろげる場所を提供しています。さまざまな違いを「おもしろいね」と包み込むTHEアート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊。もっと詳しく知りたい方は、読み聞かせ隊のホームページをぜひご覧ください。

■THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊

代表 三沢 範子

メールアドレス theartpro@gmail.com

ホームページ <https://theartproject.jp>

